

阿蘇山

概 況

中岳第一火口は、22 日に 311 を観測するなど南側火口壁の温度が高い状態が継続していますが、火口内は全面湯だまりが続いており、火山活動に特段の活発化はみられていません。

噴煙活動の状況

噴煙は月を通して白色・少量で、噴煙の最高高度は 7 月 3 日の 500m（6 月 300m）でした（図 6）。

地震活動の状況

7 月には孤立型微動を 37 回（6 月 36 回）観測し、そのうち最大振幅は 30 日 18 時 49 分の $9.8\mu\text{m/s}$ （6 月 $19.8\mu\text{m/s}$ ）でした（図 7、図 8）。また、A 型地震の発生回数は 21 回（6 月 40 回）で（図 9）主に中岳第一火口付近で発生しました（図 15）。B 型地震の発生回数は 217 回（6 月 151 回）でやや多い状態が続いています（図 4、図 11）。

期間中、火山性連続微動はありませんでした（図 14）。

地殻変動活動の状況

G P S による地殻変動観測では、草千里 - 砂千里浜、草千里 - 仙酔峡、砂千里浜 - 仙酔峡の各観測点間の基線長に変化は見られませんでした（図 16）。

現地観測の状況

火口底は全面湯だまりの状態が続いています。

南側火口壁の温度は、依然 300 程度で高い状態を保っています（図 5、図 13）。

湯だまりの温度は、6 月に引き続き変化はなく、最高は 29 日の 59 でした（図 13）。

噴煙は白色で青白色ガスも観測しました。

（温度測定は、赤外放射温度計による）

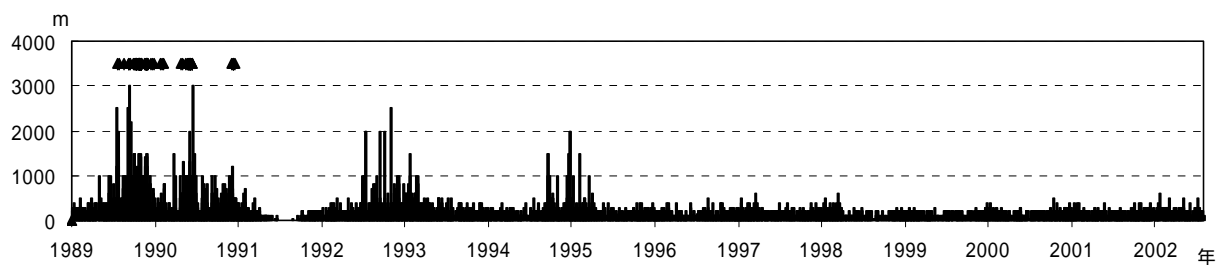


図1 日別最高噴煙高度及び噴火日(1989年1月～2002年7月)

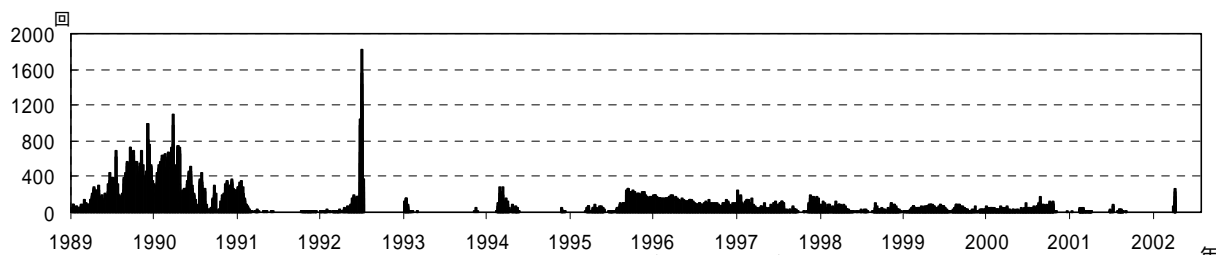


図2 孤立型微動日別回数(1989年1月～2002年7月)

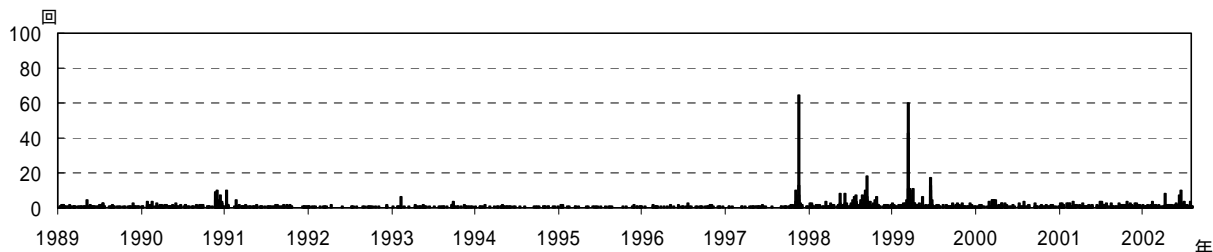


図3 A型地震日別回数(1989年1月～2002年7月)

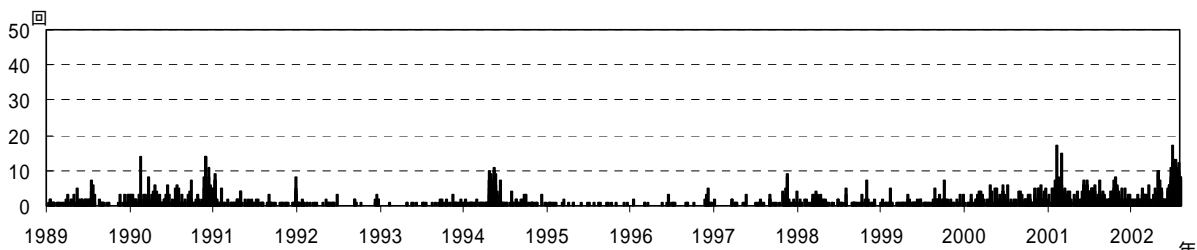


図4 B型地震日別回数(1989年1月～2002年7月)

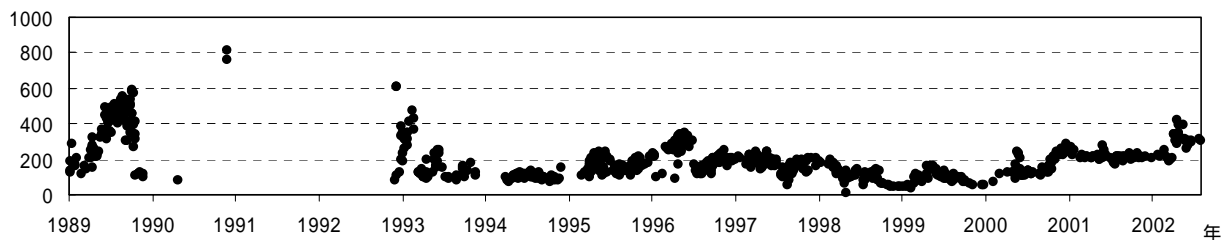


図5 火口底(壁)温度(1989年1月～2002年7月)

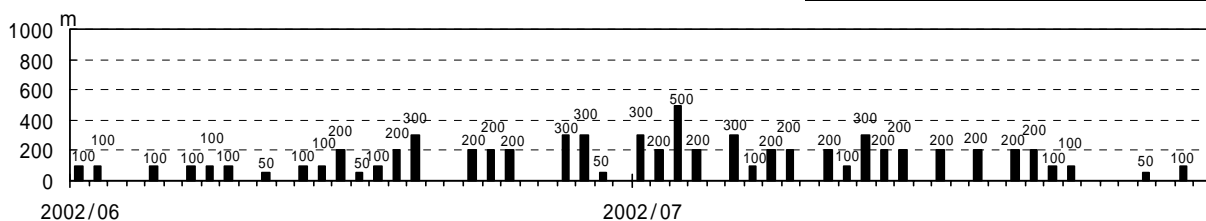


図6 日別最高噴煙高度(2002年6月1日~7月31日)

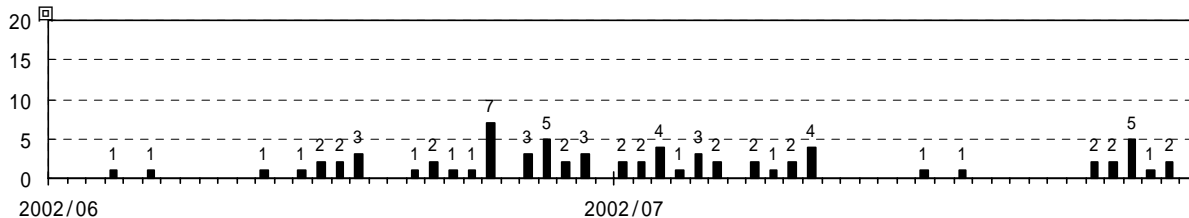


図7 孤立型微動日別回数(2002年6月1日~7月31日)

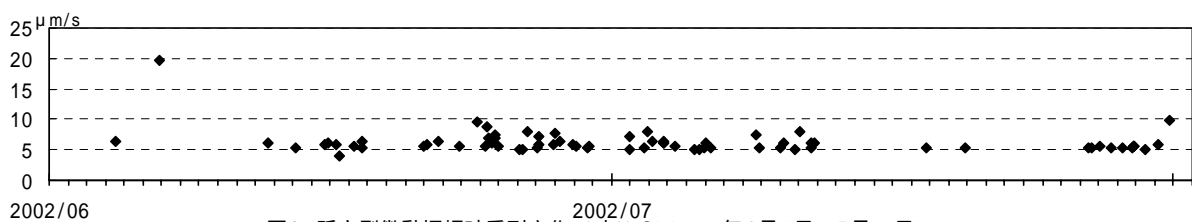


図8 孤立型微動振幅時系列変化(A点N-S)(2002年6月1日~7月31日)

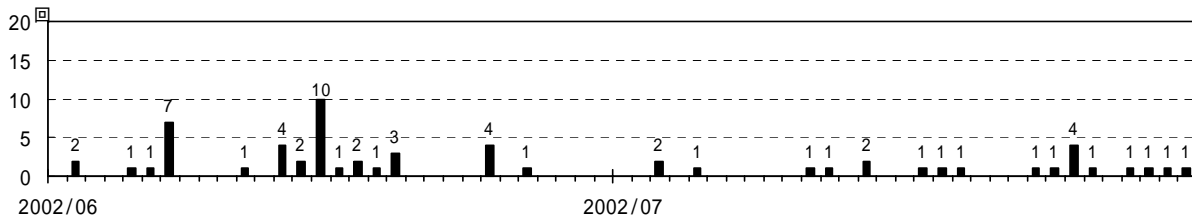


図9 A型地震日別回数(2002年6月1日~7月31日)

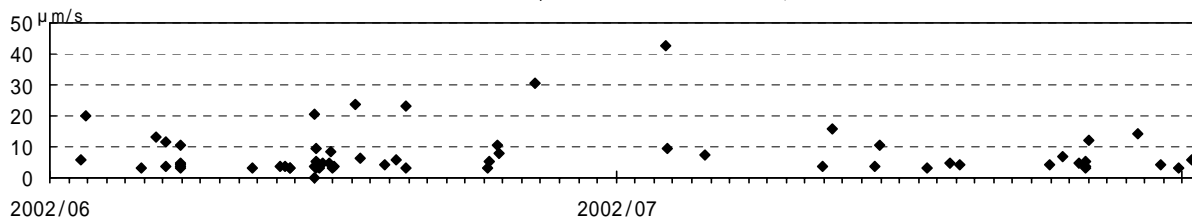


図10 A型地震振幅時系列変化(A点U-D)(2002年6月1日~7月31日)

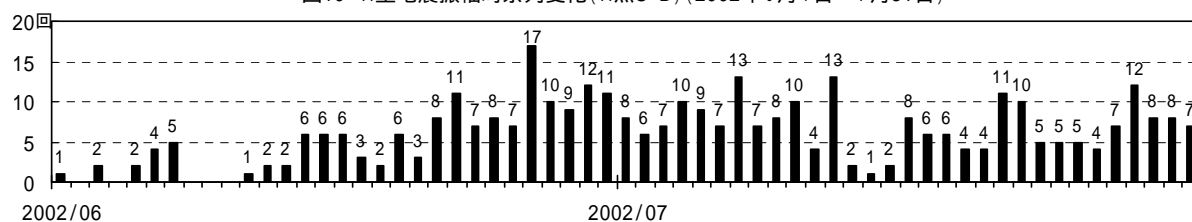


図11 B型地震日別回数(2002年6月1日~7月31日)

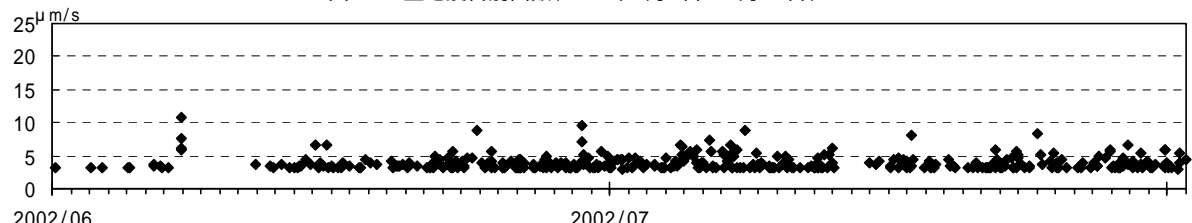


図12 B型地震振幅時系列変化(A点U-D)(2002年6月1日~7月31日)

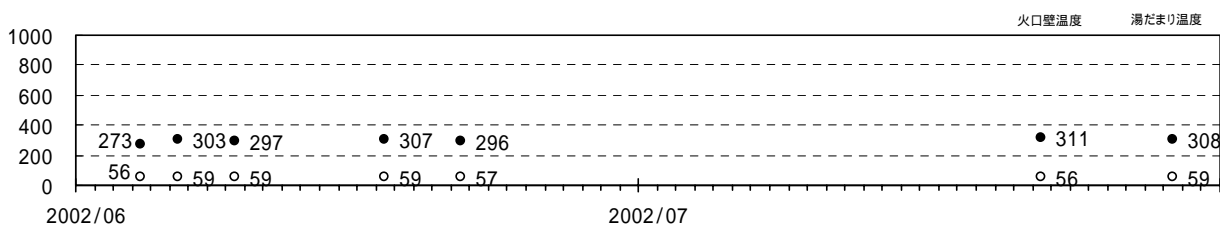


図13 湯だまり温度及び火口底(壁)温度(2002年6月1日~7月31日)

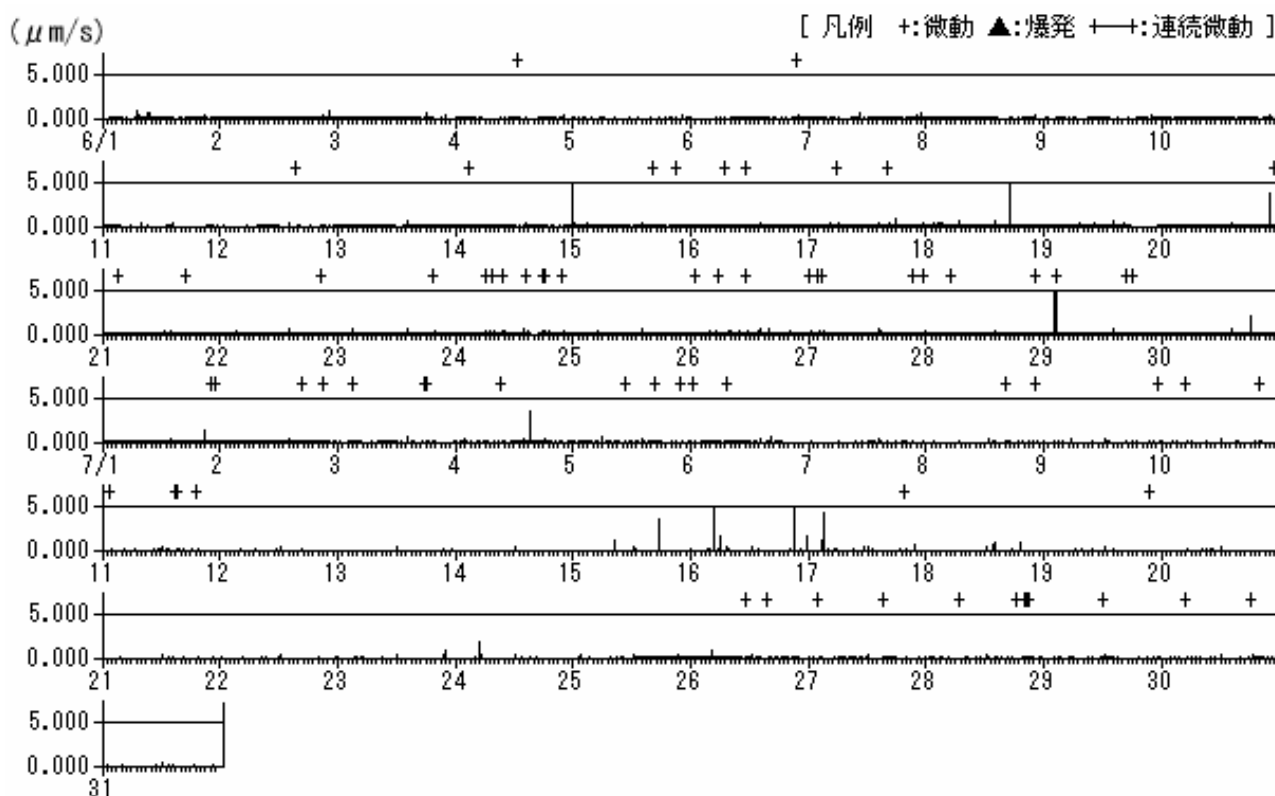


図 14 1 分間平均振幅の時間変化 (A 点 N-S) (2002 年 6 月 1 日 ~ 7 月 31 日)

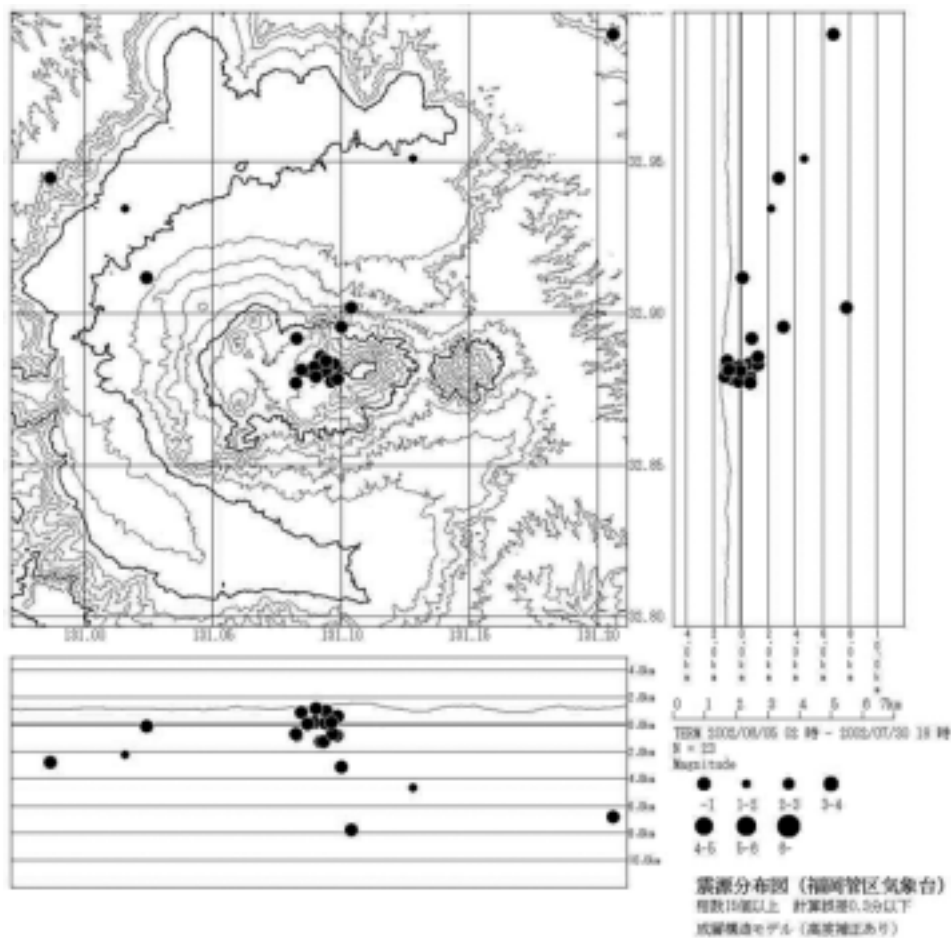


図 15 震源分布図 (2002 年 6 月 1 日 ~ 2002 年 7 月 31 日)
 (気象庁及び京都大学地球熱学研究施設阿蘇火山研究センターのデータを使用)

阿蘇山

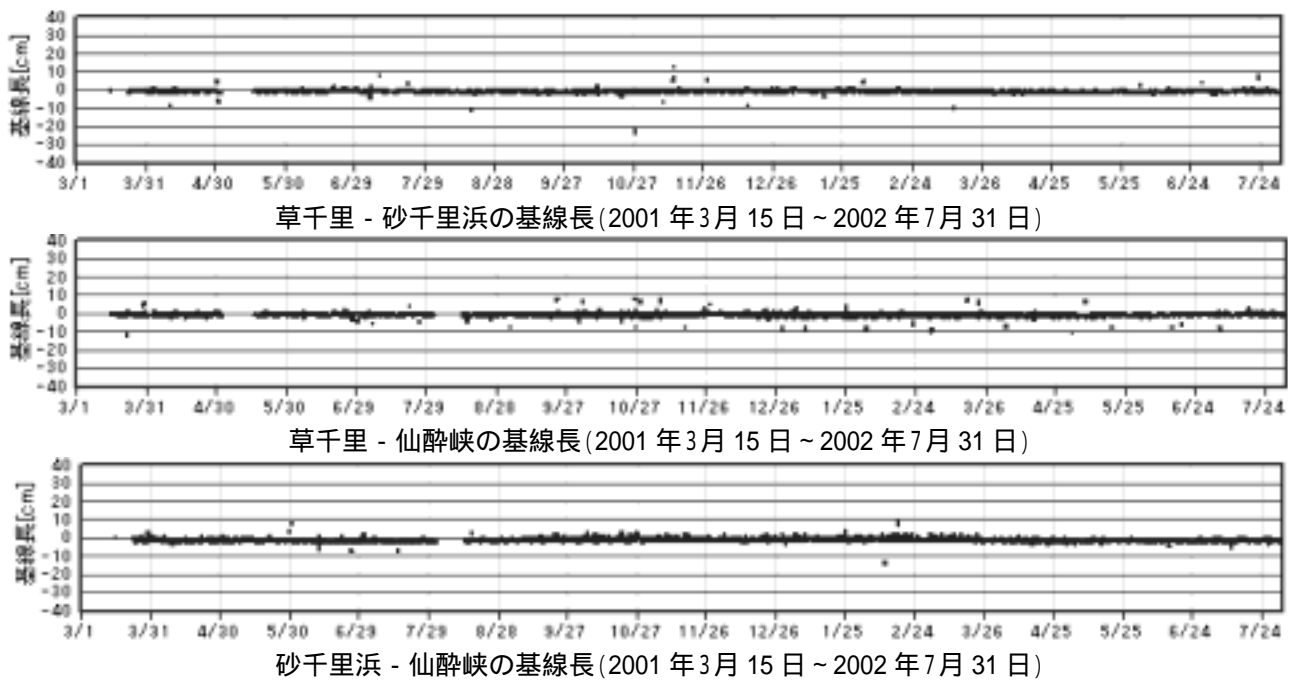


図 16 GPS による基線長

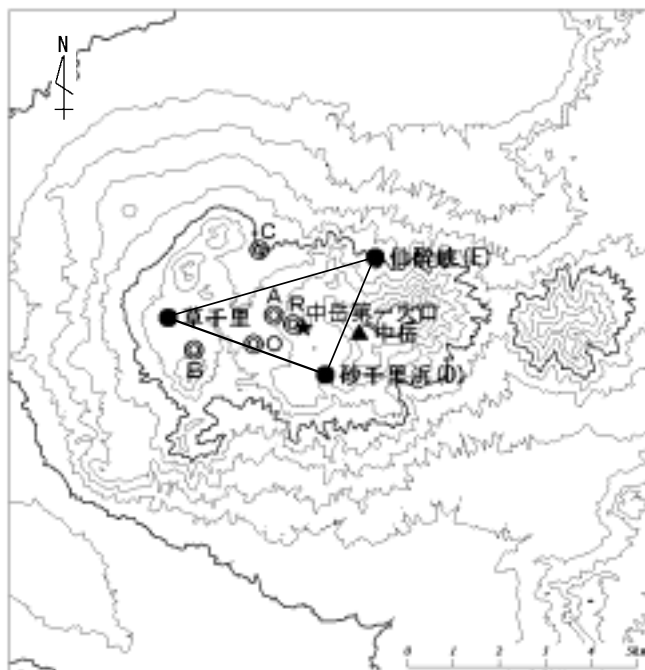


図 17 観測点配置図